

# 第二章活用事例

## 「直して つかう」 ― 二宮 尊徳のものがたり ―

小学校一・二年生版

「心あかるく」 p.40  
「きんぎょ」 p.45

### 【主題名】 物を大切に

第一学年及び第二学年 1-(1)

「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をしよう。」

### 【ねらい】 物や金銭を大切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》「『一・二年生の時期の児童は、身の回りの整理ができなかったり、物を大切に扱えなかったりすることがあります。身の回りを整理することの気持ちよさや、物や金銭の大切さを実感することは、日々の生活を大切しようとする態度の育成につながっていきます。日常生活の様々な場面と関連付けて指導することで、児童が自発的に行動できるようにすることが大切です。』



「この写真の人を知っていますか。」

○二宮金次郎像の写真を提示し、金次郎は努力家で人助けをした立派な人物だったことを伝え、資料への興味をもたせましょう。

## 導入

○教師が「直して つかう」を読み聞かせましょう。



「ぼろぼろになって捨てられたわらじを見て、金次郎はどのように思ったでしょうか。」

○「もったいない」という金次郎の心の言葉に着目させましょう。



「捨てたわらじをなおし続けながら、金次郎は、どのようなことを考えていたでしょうか。」

### 中心発問

○勤勉・努力や勤労などの別の道徳的価値に展開していかないように、物を大切にするという視点から考えさせましょう。

《評価》 物を大切にすることの意味に気付くことができたか。



「村の人たちに感謝されたとき、金次郎は、どのような気持ちだったでしょうか。」

○「うれしく なりました」という部分に着目させて、金次郎はどのようなことがうれしかったのかを考えさせましょう。



「身の回りで、これからはもっと大切にしようと思うものは何ですか。」

○身の回りの「もったいない」に気付かせたり、「物を大切にしよう」ということを具体的な行動を結び付けて考えさせたりしましょう。

○「心あかるく」 p.83  
「きんぎょ」 p.84  
「きんぎょ」 p.84  
「きんぎょ」 p.84  
「きんぎょ」 p.84

「できたかな。きんぎょの生活を、たしかめて みよう」に記入をさせて、自分の生活を見つめ直させ、これからの生活で気を付けることを考えさせましょう。

## 終末

【資料の特徴】「直して つかう」は、二宮尊徳（金次郎）の幼少期のエピソードを描いた読み物です。金次郎は、一日中働いてくれたたになりながらも、毎晩、ぼろぼろになって捨てられていた大量のわらじを集めては編み直し、村の人たちに使ってもらっていました。物を大切にすることの意味を考えたり、自分でできることを考えて実行したりしていくきっかけをつくることのできる資料です。

### 板書例

直して つかう

― 二宮 尊徳のものがたり ―

二宮 尊徳像  
の写真

○ どりよくをつづけたひとりっばなおとなになった。

ぼろぼろに なって すてられた わらじを みて  
金次郎は どのように おもったでしょうか。

○ このままですてってしまった方がいいのだろうか。  
○ なおせば、まだつかえそうだ。  
○ なおせば、またみんなにつかってもらえる。

わらじを見る金次郎の挿絵

ひろったわらじを なおしつつげながら 金次郎は どのような ことを かんがえて いたでしょうか。

○ またつかえるものになってよかった。  
○ 村の人たちにつかってもらえる。  
○ これでわらじがむだにならない。

わらじを作り続ける金次郎の挿絵

むらの ひとたちに かんしゃされたとき 金次郎は、どのような きもちだったでしょうか。

○ ものをたいせつにできてよかった。みんなもよろこんでくれている。  
○ これからも、ものをたいせつにしていこう。  
○ みんなにも、ものたいせつさがわかってもらえてうれしい。

みのまわりで、これからは もっと たいせつに していかうと おもう ものは なんですか。

○ いらなくなった かみは、すてずに かいしゅうに だす。  
○ きられなくなった ふくは、だれかに あげたり、リサイクルの おみせに だしたり する。  
○ かばんを なげたり ふりまわしたり しない。  
○ としょしつの ほんを おったり よこしたり しないように きを つける。

### 《評価》

物を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。